嚶鳴第六集

837
11
70

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70

ガラス使用

837-70

根岸信韓氏寄贈

根岸憲助氏委託本

加藤攖字知量号殿峯別壮潤釣
徒霞石山人房州人

山水歌簡春木南溟翁兼賀七十一

有山萬疊隠神仙、有水一曲泛釣船、維山維水淡莫分、
此中長自断塵縁、南溟老人丹青客、十日画水五日石、
常画山水送生涯、欲續米老傾家跡、曾訪老人載酒隨、
一別匆々歳月移、文久之三春三月、遠尋山水和我扉、
贈我一幅雲山景、墨痕鬱勃殊幽静、百道飛泉争為川、
孤雲歸處露半嶺、苦留老人問丹青、六要六法要細聽、
底事翻然去不留、掉頭一笑上離亭、徃梦並々已三載、
嗟我風塵顔未改、毎逢佳境氣自餒、忽驚尺素傳天涯、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70

ガラス使用

如得朱船手忙披、書中誇說開壽筵、短翼難隨柰差池、
作詩遥賀老人壽、却慙陳腐汙高致、厚顔把筆任人嗤、
漫書老人平生事、老人即今住城東、画山画水隱其中、
好令老人長钁鑠、仙境人間亦應同、

鈴木時敏 字道積号春渠江戸人

福壽草

綠葉金英映雪開、磁盆移植傍紅梅、花形雖小花名大、
獨占周書五福魁、

水原芝 字羨瑞号三酉散人又耻堂大津人

春夜

上窓花影伴閑宵、醒後孤懷柰寂寥、憶起曾遊芳野嶺、
微雲淡月吊南朝、

岡島重通 字思卿号竹厓又靄谷常州龍崎人

平等院懷古

維昔治承奉詔時、一門唱義舉旌旗、塵烟忽起逼梁上、
腥氣直来侵水湄、戟折箹空神已屈、計窮運盡刀全疲、
英魂尚在扇般草、千載長留埋木詞、

駿河龍華寺庭中口占

春半山園霽色清、芙蓉入眼最分明、帶煙鋏葉屈蟠翠、
不負龍華佳道場、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

堤重道 字復卿号省軒常陸外記新田人

遊塩原温泉 原二十今節三

絶壁奇嵒壓水光沙邊釀得幾温湯樓臺多少閑風月
何料人間有箇鄉

行李飄然入翠巒層樓總是似仙寰箇中真趣誰能識
卧聽溪聲起看山

煙抹奇峯已欲無殘陽依約水雲區微吟橋上携筇過
好是天然淡墨圖

塩原山中吊名妓高尾墓

千秋嬌韻想風姿今日何堪讀舊碑猶是青苔孤墓畔
一痕蟾影細如眉

岩井田義路 字号竹厓二本松藩士

敦盛

萬卒爭舟指須掬獨憐公子去尤遲須麻山畔春風悪
吹折半開花一枝

中島龔 字君敬号黄山二本松人

服部氏書樓矚目

家在層城第二關萬千氣儻入窓間雲耶難辨花難別
一桁平臨管内山

八木保 字有之号半村南臺男品川人十四童

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

紙鳶

高下任風姿態悠熙、此處伴童游飛行羨梦想兵術、

駕汝周觀五大洲、

杉野時智　字子乘　号竹泉　常州龍崎人

賞花

桃李紛々雪、隨風落舞筵、如何花不語、醉客為花顛、

客夜聞鴈

他鄉忽引故園情愁殺新鴈叫血聲、窓下無聊空撫枕、

懷家千里月三更

岡野恒　字公盈　号雲屋又月曉樓　常陸龍崎人

題自画枯木竹石

搓牙老樹尚蕭疎、剪翠擁根清有餘、幾點苔痕自然質、

補閒寫出此心虛、

題画

一抹斜陽萬仞山、半間茅屋聽翁閒、笛聲併得流泉響、

知是樵童夫月還、

宍戸義明　字子方　号克齋　江戸人

送劒客某

腰間三尺劒、百練曾無撓、憐汝四方志、莫侵海上妖

松下俊弘　字子粛　号春雲　攝州高槻人

和楊園竹内先生移居遇雨作

蟠龍興起雨雲長譽似金鱗燿萬方、共仰天公感君德、先令屏翳送嘉祥、

工滕精義 字盛夫号敬齋又逸源書屋江戸人

都俗以每歲七月念六夜拜月出品川海岸特盛此夕妓娼成隊按絲吹竹舞踏而過游客如雲往来雜沓妓樓酒家張燈延之其明如白晝達天明而散戲作一絶句以紀事

髩影釵光簇水湄、樓々燈火盡褰帷、幾場歌舞喧連曉、月出波間醉不知、

愛妾換馬

滿顔春色欲傾城、曾侍芳筵頗有情、一夕秋風恩意断龍駒換得取英名、

走馬燈

火氣廻風恰似嘘、旌旗人馬後先趨、也知兒戲呈機巧、現出英雄戰鬪圖、

高野充行 字子宣号昂齋又椿葊北総大房人

見梅

紅梅如醉白梅醒、両樹含妍春日晴、世上唯憐紅色艶、爭知別様白花清、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

書懷

歡時是菊歎時楓、一月吹来両様風、悟了片言先聖意、耕飢學祿在其中、

淵邊包文 字子哲号半林一游萍江戸人

發楊子江 此作航海紀中所載数十首今節四

朝辭上海下吳淞、両岸柳桃春色濃、水漲風追帆不止、殷々吹送寺樓鐘、

麻剌甲洋中作

西是蘓門東息力、蒙茸千里多洋賊、預傳警戒火船奔、一道煤煙遮月黒、

齊狼島

燈塔砲墩非舊物、只如羅漢土人顔、千年聖跡今何在、雲外巍然靈鷲山、

阮日多路上

連天沙漠渾灰色、人乘駱駝顔似墨、旬日急行途未窮、天公試我過荒域、

棚谷善 字元卿号鳳陽又桂陰笠間人

偶成

年豐却恠粒如玉、物貴始看錢失神、炊靄接天塵捲地、誰知中有割慈人、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

關本寅 字夏正号三泉拙存齋 專心堂皆別号江戸人

槖吾

嵇公遺器委寒灰、一化芳根寄草莱、便在僧房從錯認、縱非治戸豈妨栽、莖疑管籥尋前契、腹比經綸貯異才、緑葉若添囊樣大、啓行也合裹糧来、

福島寧 字子直号柳圃一号默神堂江戸人

白秋海棠

玉砌抽芳豈爛根、幽姿冷艷絶塵喧、晶簾映出夜消影、銀燭照残秋断魂、班女早衰凝涙點、文君新寡拭脂痕、素心應厭凡人寵、不曳紅羅近酒樽、

藤島壽 字鶴卿号松齋備中人

聞蟲

草際吟何者、訴秋雨後天、幽人孤坐夜、迎月伴清絃、

長谷川域 字子肇号昆溪一梦生陳人江戸人

戒某醫生嗜詩

彫柳鏤花枉費神、蜂腰鶴膝受嘲頻、良醫々國在三折、須救煙霞痼疾人、

小川晉 字仲遜号櫻關江戸人

題醫経以示某生

毒固無形乘水血、能回水血毒随除、莫言治法唯觀證、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

證是如筌水血魚、

田口克 字之文号江村江戸人

遊仙軒雪後看梅

白邊猶雪裡、紅處更松間、香靜森〻起、吹令醉顔班、詩人老伴鶴、處士思棲山、安得三百本、和雲擁湖灣、

關思敬 字弘道一字鋏卿号雪江江戸人

木賊以下九人係枕山社中

高僅尺餘森作叢、琅玕直立碧玲瓏、一心虛了蓮何及、寸節持来竹乃同、賢質後凋霜色底、清姿先現月明中、假名不負刈收處、砥石輸他磨礪功、

溝口恒 字子直号桂岩江戸人

木賊

池角參差並石生、無枝無葉灑然清、游魚戲影畏風冷、跳兎伏身窺月明、直似嫩篁留黒節、枯如熟麥變黄茎、匠工磨木增光潤、到底憐渠受賊名、

富島譽 字無斁号石樂江戸人

木賊

冐他木姓柰材軽、瘦節亦能偷晩榮、状比龍芻青幾束、苗如鳧芷爽千茎、古謡曲裏仍傳譜、本草経中略記名、鎌刄施刑應有恨、盍将花賊坐同盟、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

内海備　字致用号龍墟　江戸人

木賊

曽原路窄轟纖々、十里西風黄碧黍、院畫寫成棲玉兎、
國歌咏出映銀蟾、須磋店女鬢頭櫛、堪試野翁腰底鎌、
此物寧同緑林種、削他木骨不傷廉、

大森惟中　字位卿号解谷　江戸人

木賊

豈同白首對霜庭、樹黨看渠年尚青、偏性翻能供藥譜、
醜名何得列詭經、剖心已覺非寃罪、解節猶憐付重刑、
誅斬不勞黄鉞手、秋鑱學月發新硎、

塩田恭　字子敬号厚庵　江戸人

木賊

不著枝條不著花、莖分寸節黑含些、餘功供藥豈須説、
奇質理材偏足許、直性從来寧有罪、虚心畢竟似無邪、
惡名未必作身累、也近芝蘭君子家、

長坂愛　字圓節号犖江戸人

木賊

甘受汙名不要芳、翻呈勁節冒寒霜、數莖直上無枝葉、
衆本叢生有短長、欲奪靈均千歳色、敢偷仙桂一秋香、
賊他杞柳何須惡、磨得杯棬發潤光、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

原和大森鮮谷弟年甫十三

木賊

叢々映日影參差、衆本相依碧露滋、通竅且疑蓮有節、直竿也怪竹無枝、論刑方値純陽月、守質曾經大雪時、惜汝流芳難遂得、醜名枉被世間知、

釋無缺名道号叱石道人住江戸光藏寺

木賊

磨琢鮫皮豈足詩、終輸此草去微瑕、千條幹列森如竹、九節莖抽直似麻、含淚湘妃身已換、勞心歜母事虛差、托根瘠地凌霜雪、只惜琅玕不著花、

棚谷鳳翔女史名君宇喜美鳳陽女江戸人

春夜

薄霧籠春月、花香暗小欄、裁縫知欲雨、不覺剪刀寒、

春日

桃李欲開梅已飛、輕風送暖到深幃、枕頭昨夜聞春雨、起捲湘簾待燕歸、

田中鶴子字鳳侶号香稻女史信州善光寺東隅稻倉村人田中秀隣之妻岩下櫻園門人

秋夜長

小絃傍母坐秋宵、此際西風虫語饒、莫咎女工收手後、一彈指頃慰無聊、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

春雨

知是豐年占、春窓燭影微、夜深聲最細、風靜落花飛、

釋賢悟　一名量性字慈舫号霧外江戸人住西本願寺中真光寺

倣大槻士廣和清人林二耻咏梅花六律韻　元首今

節二

抄冬早已回二春色一、綽約仙姿傍二小園一、清影移レ窓初日動、暗香穿レ箔暮風昏、千年難レ継壽陽額、一夕化成和靖魂、幾度徘徊情不レ盡、夜来月黒似二孤村一、

氷肌玉骨自成レ林、何受歲寒霜雪侵、數朶瓊英偎二屋角一、一痕素月懸二天心一、樹邊莫レ羨柯亭笛、爐上時彈緑綺琴、

落蘂飄然隨レ水去、漾蕩春光不停レ音、

釋義晁　号樵隠尾張人住南禅寺心眼院

送南園師歸江戸

倦游京攝柰歸期、三十年間舊相知、我亦東山禅本草、老来豈忍賦二将離一、将離芍藥異名師所レ経

釋貞静　号芝洲又号岫雲住芝長徳寺

晒書

日氣如レ烘雨霽初、窓前亂曝舊藏書、自羞廢課纏二塵累一、經苦詩甘飽二蠹魚一、

中元坐月

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

最愛中元釀早涼、嫦娥滿地白如霜、堪嗟華燈遮月光、

釋元常 号栖雲 字五堂 住京師人

卜居

不隱青山隱墨陀、為隣水木發清華、亭臨江渚可風月、窓向村塘宜雪花、自判懶慵疎世事、好投閒散送生涯、故人尋我幽棲處、野渡西南第五家、

賀南園師七十

老領健閒天所憐、況兼眼耳齒牙全、佳篇妙句世爭誦、紀事纂言家秘傳、戲采稚孫消永日、玩摩骨董得延年、今年七十猶能飯、不羨餐霞服氣仙、

釋玄亮 号篁園 住武州大井西光寺

晩陰海望

奔雷過去怫炎蒸、自逐爽風棲上登、下網洋中船不動、平波萬頃列篝燈、

釋典山 号錦梁 住小石川

喜雨

薰風吹雨又吹晴、潤物無聲處處生、水滿秧田民庶喜、斷虹猶在柳梢明、

春詞

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

江南一路酒旗多、天氣偏從雨後和、花柳滿堤春正好、
画樓爭唱雪兒歌、

釋天齡 号培風武州大森人

東福寺

寺外青楓映小山、山中無處不幽閑、通天橋下曲溪水、
日夜為誰鳴碧湲、

水村聞蛙

一路春風深落花、水村三月始聞蛙、半天野色黃昏月、
多少耕人急到家、

釋密乘 号南園美濃人住品川正德寺

乙丑元日

餘生健藥不求他、書画堆中歲月過、休賀閑人得稀壽、
無能七十古来多、

日光山雜咏 原二十首今節二

深山景氣異他多、杏李梅桃時節差、獨有名芳協風土、
南熏吹發石楠花、

勝具堪忻具此身、自縋銕鏁上嶙峋、多聞天子多聞否、
七十古来如我人、

釋壽岳 字泰然号終南淺艸專勝寺

盆池養魚

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

愛養金魚多異姿、井華新汲灑盆池、堪憎狡黠村童子、細竹截竿垂釣絲、

蕉窓茗話

雨打芭蕉滴々軽、紗窓々外叩詩情、空齋閑話殊岑寂、時聽蛙兒墮水聲、

釋兼芦 字叔成号詩鵬淺草圓照寺

春夜雨

幽梦摧殘近曉光、軽風誘雨叩禪房、枕邊點滴多花露、窓紙沾来暗有香、

客舎聞鵑

梦裡分明到故鄉、妻孥相話十年情、破窓眠覺關山月、時聽不如歸去聲、

釋兼靜 字温厚号南涯圓照寺法嗣

聞新蟬

日暮蜩蟬初有聲、幽音切々鼓吟情、兒童繞樹尋栖處、乍聽登音乍止鳴、

釋定圓 号雪溪深川因速寺

夏夕戲咏

涼伏睡魔威自雄、嘶風簷馬助奇功、又看四面起蚊陣、團扇揮来一掃空、

六月立秋

牽牛花綻飾前庭、交替瓜期似促軿、赤帝今朝決歸意、
先呼商籟付蓥鈴、

釋靈觀　名大觀号敬齋　下谷西光寺

洲崎晩望

海門雨歇夕陽曛、佃島晩炊煙誤雲、浮鴨沈鷗竟無跡、
一竿月上水天分、

剰暑

梧桐一葉落前庭、猶見殘炎燎小櫺、甑坐一身煩苦甚、
亂蟬乾噪不堪聽、

釋忍成　号梅堂

春日路上偶作

故郷不是路程賒、自起蒙塵身自遮、一樹野梅三歎息、
何年又見我家花、

釋了壽　号小笠浅艸　浄正寺嗣子

剰暑

醉後沾衣汗若流、旱天殘熱燬床頭、碧翁不灑銀河水、
誰信人間入早秋、

放籠蟲

秋雨晩来初見晴、籠蟲唧々起悲聲、離邊放汝莫遥去、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

白露降時近檻鳴、

釋觀中 字德源号竹櫻玩称尾州玉野人住光願寺

某宅即事

日脚遅々麗彩霞、芳筵笑語是誰家、喜他黄鳥能無意、啼落櫻梅幾片花、

嚶鳴第六集尾

嚶鳴第六集增補

釋卍英 号雄山藝州人

山寺冬曉

月落星稀寺啓扃、曙天寒氣透疎櫺、修廊風怒翻塵幕、廣殿氷嚴裂淨瓶、傍母白猿啼後谷、領兒黄犬吠中庭、轉頭軒外望山色、戴雪晴呈竹柏青、

下條裕 字綽号淡水尾張人

秋江垂釣圖

林容山影映江湖、正是秋天雨霽初、一葉軽舟衰柳岸、半灣斜日釣鱸魚、

国立国会図書館 タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

釋宜圓 字桂巖 号雲泉又松濤齋 羨濃玄野人

春夜

靄々妍々春可憐、微風淡月夜深天、半階斜轉櫻花影、人在香雲帳裡眠、

井深重雄 字子讓 号岩桂 羨濃更地人

驅蚊

紗廚便是一重城、穿入飢蚊如利兵、把燭手親屠盡了、悠然揮扇坐三更、

釋順行 号雲樵 羨濃有里人

渡口晩景

呼舟不答立多時、岸々疎楊風拂衣、日暮釣魚人已去、一鉤涼月照苔磯、

長沼秀實 字君苗 号蝦村又蟠龍窟 羨濃小衣斐人

送所春洋之京華

雪晴雲散望悠々、樓上停盃淚更稠、驛路行程三百里、思君今日入江州、

野川寶 字子蔦 号桃崖 濃州數屋人

字治途上

原田高下碧雲遶、行看薰風長嫩芽、好箇女兒追伴去、一人々摘一筐茶、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

乾達義 字子讓号柏軒又掬水書屋美濃中之本人

不破古關

一自龍車背月還、美名千載落塵寰、遺民猶護風流跡、靈地長存荊棘間、

原光知 字士充号貫江美濃見延人

移家深山

空山結宇謝人尋、獨倚欄干聞曝音、陣々清風吹熱去、苦吟無友々猿禽、

小里頼雅 字子頌号百峰又積辭園主人美濃玄野人

新羅三郎

多日學笙々已工、援兄奥地客途中、鶺鴒原上停戎馬、秘曲吹傳月下風、

横山吉義 字恭禮号竹窓美濃玄野人

從大垣到桑名舟中

十里江光夕陽舂、軽舟泛々水溶々、篙師指點春霞裡、一髮青山是膽峯、

釋幸輪 号孤月又半仙子美濃数屋人

池上寒景

半池蘆荻卧嚴霜、枯葉戰風磨鏡光、凍了寒汀波不動、閑鷗泛在水中央、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

横山吉寛 字千里号三川釣徒又水静花間書屋美濃玄野人

大石良雄

義氣貫天々已知、楠公之外豈為誰、花街樓上當時月、又照復讎寒夜時、

横山吉章 字子憲号竹潭美濃玄野人

月下小酌

月下西窓醉未消、露華桂影夜迢々、樽前一睡無人喚、梦遶楊州廿四橋、

梅田光将 字子芳号卧龍美濃見延人

甲子重陽病牀絶筆

吾生二十一重陽、病對黄花背酒觴、遺憾戦場難曝骨、功名不遂死匡牀、

巖谷修 字誠卿号迂堂別号随鷗漁者

秋夜不寐

秋風落木夜如何、愁緒紛々枕上多、促織聲悲眠不得、更聽飛檄急於梭、

織田貫 字耕道号文禮江戸人

余始獲一女兒未幾亾悲歡併臻因賦以自慰

且喜嬌眸慰老生、一朝風露柰無情、幻華猶勝不相現、堂上呱々存數聲、

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

讀嚶鳴集

詩卷開來花爛熳。桃紅杏艷競佳名。
先生時把囮媒具。聽取霜冬百鳥聲。

淳信

其二

采風收海內。交友日登門。
文苑執牛耳。楊園即隋園。

桐陰赤松恕

堯田居士信書

嚶鳴集題言

均之一鶯也。使之鳴於春。則聞者油然生求友之思。至夏則貶之。曰老鶯聒耳。不如新鵑之可喜也。然鶯與鵑。未有分。未容為優劣。唯以新舊之異時。聞者自為愛憎之變也。若使之鳴於南至之後。立春之前。則人皆欣然側耳艷之。如曠夫聘季女。是乃竹內子行。選嚶鳴集之意也。自初

国立国会図書館 タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

集至五年。既成數年前者。嗚於春之鶯也。其後屬世多事。久廢之者。鶯之不嗚於夏也。今又刻第六集。余試把閱之。圓活流麗。有冬後聞新鶯之概。如有問焉者。亦將應曰此是偌耳之箴砭。詩腸之鼓吹。

慶應紀元孟冬之月

橘陰散人小橋勳識

正寫柳田貞亮書

跋嚶鳴集

竹内子行。少游四方。好交雄偉非常之士。其在上毛之日。訪余於笠間。一見如舊。置酒論心。閒及當世之務。則出示所撰今英靈集。皆其所與結交者。而忠憤憂時之慨。落落參列于編間。其關于世道也。不小矣。既而音問杳絶。已未之夏。余承藩命。移家江戸。則子行先在焉。而馳逐羣賢之間。乃

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

復文酒尋歡。風月之賞。必共其遊。酣醉淋漓。宛如昔日。又得其所著嚶鳴集讀之。其詩獨取温柔和平之辞。而不載悲壯激烈之篇。与嚮所撰。如出別手者。何也。蓋子行少壯氣鋭。交四方豪俊。磨礲淬礪。将有為之日。著英靈集。以托慷慨憂世之意。故其詩如彼。及其再来都下也。周旋秋苑。蒐羅群才。著嚶鳴集。以鳴昭代雅騷之音。而昌文運於後世焉。故其詩如此。要一時感興所由。前後之不同。亦足以知子行處世之概也。且夫子行年未强。他日學識益進。文章事業。必有表著于一世者。區區撰著。未足以盡子行也。及六集成。乞言。乃以是為跋。慶應紀元歳次乙丑十月上浣。鳳陽栁谷善元卿撰

敬齋滕精義書

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用

837
11
70

題詞二首

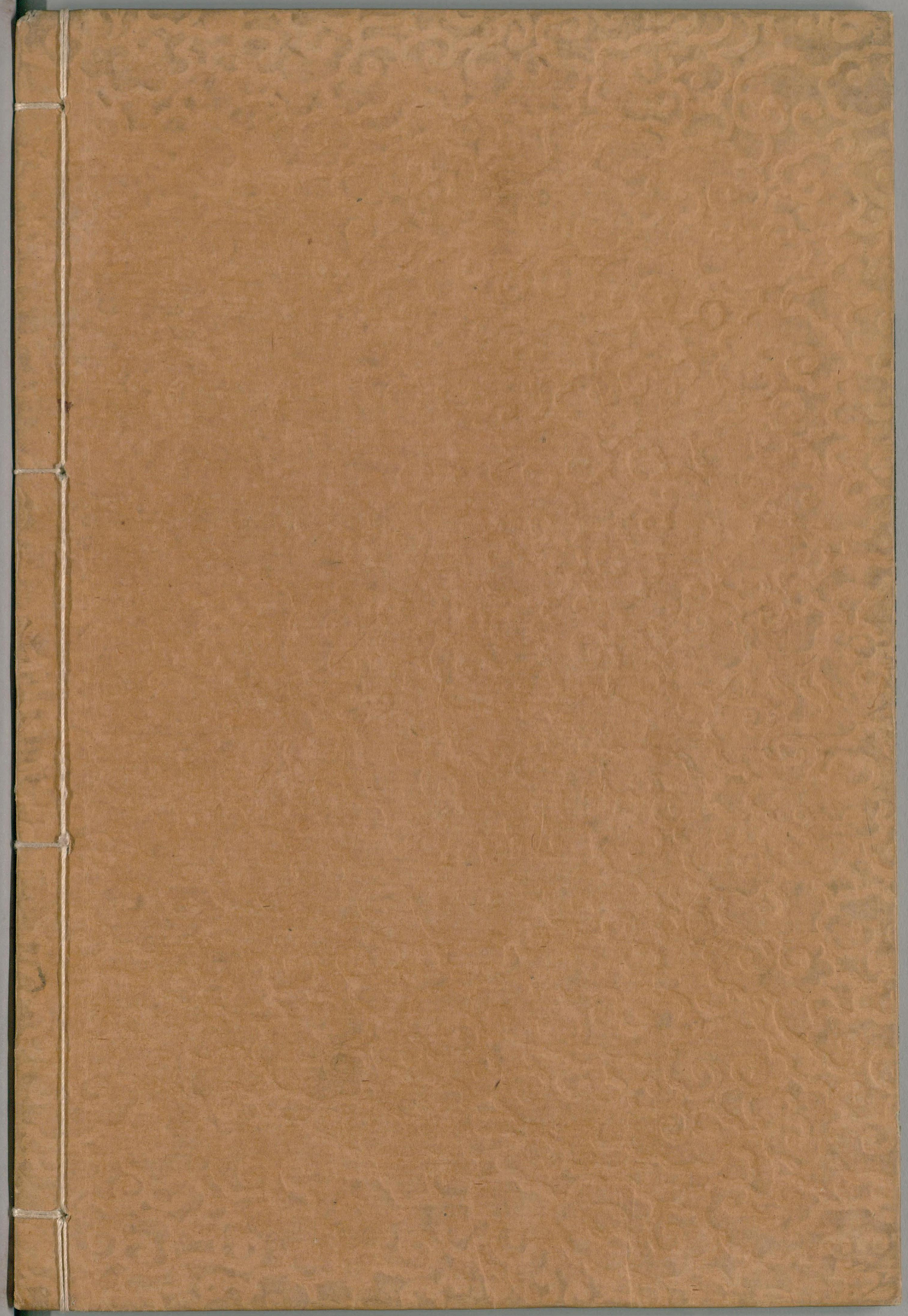
卷中各自占芳蕤。喚友新鶯百囀工。豈是嚶鳴傳一世。也隨小雅到無窮。

卷中十五國風開。陸續名篇次第来。言志永聲今古一。坐看海内幾奇才。

鷗隣漁者中田常

迂重遼史崇谷修書

国立国会図書館　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『嚶鳴集 9編』 請求記号 837-70

ガラス使用